

2021年度 初芝橋本中学校・高等学校 学校評価

1 教育目標

① 目指す学校像 難関大学への進学、立命館への高大接続による進学、スポーツで一流選手への成長などを目指す多様性をもった近畿南部随一の学校
② 育てたい生徒像 自ら考える力を持ち、素直で、周りを思いやり、忍耐強く物事に取り組むことのできる生徒

2 中期的目標

1 教科教育力の強化と進学実績の向上
2 立命館コースの高大接続の取り組みの強化と学力向上
3 クラブの競技力向上と全国大会出場
4 特色ある教育（探究型教育・グローバル教育・ICT教育）の強化
5 生徒募集強化による定員の確保

3 学校教育の自己診断と学校関係者評価委員会の意見

学校教育自己診断の結果と分析	学校関係者評価委員会からの意見
<p>①教育活動に関する保護者アンケート（2021.12.1実施）</p> <p>中高共通の21項目のうち、中学では11項目、高校では7項目が肯定的評価80%以上となった。特に、「わが子を入学させて良かったと思う」（肯定的評価中学88.0%・高校84.8%）、「教職員は、生徒のことをよく考えて指導している」（同92.2%・87.4%）、「挨拶や時間厳守など、社会に通用する指導がなされている」（同94.1%・92.0%）、「制服に満足している」（同88.2%・84.1%）などが中高ともに高評価であった。</p> <p>学園理念や校訓の共有、今年度よりスタートした「セルフデザイン」の運用方法、コロナ禍における学校行事の在り方などについて、検討、改善をしていく。</p> <p>②生徒授業評価アンケート（第1回：2021.6.14 第2回：2021.11.8実施）</p> <p>昨年度より外部委託を行い、より正確な分析を行えるようになった。総合評価の平均は、第1回は中学88.1pt、高校86.0pt、第2回は中学88.2pt、高校85.3ptと高評価であった。2回とも分析報告会を実施した。教員間で相互授業参観や研修を行い、より良い授業を行えるよう、引き続き努力する。</p> <p>③教員による自己評価アンケート（2022.1.24実施）</p> <p>「教員間・教科間での相互理解・信頼関係」、「教職員間での情報交換・共有」など、教職員間のコミュニケーションに関する項目で前年度よりも肯定的評価を伸ばした。また、「教員研修」、「互いの授業見学」の項目でも改善が見られた。コロナ禍においても学校行事を実施できるしくみ、および、生徒指導の方針や家庭との連携等について、改善していく。</p>	<p>①委員会体制</p> <p>初芝橋本中学校高等学校評価委員会 教育後援会会長（卒業生保護者・地域有識者）・ 教育後援会顧問（卒業生保護者・地域有識者）・保護者会会長・ 高等学校2学年保護者・中学校2学年保護者・校長・教頭・事務長</p> <p>②委員会実施日</p> <p>2022年3月19日（土）12:00～</p> <p>③自己評価の結果に対する委員会の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「セルフデザイン」、オンデマンド授業、ICT活用、探究活動など、新しいことに挑戦していることがよく分かった。なかなか参観できる機会がないので保護者にも取り組み内容や発表の様子などを発信してほしい。</li> <li>「進プロ」・「スタサタ！」もよく工夫されている。より生徒が受けたいと思う、興味のある内容を企画してほしい。</li> <li>学校行事について、コロナ禍でできなかったこともあるだろうが、工夫してできるだけ実行してほしい。</li> <li>スポーツコースは今後の実績や生徒募集のためにも、トレーニングルームの環境を改善してほしい。</li> <li>ホームページでの情報公開を活発にし、SNS（Instagramなど）に動画配信をしたり、生徒自身がコンテンツを作ったり、初橋のやっていること、魅力をもっと見てもらえるように工夫をするべき。</li> </ul>

4 本年度の取り組みと達成状況

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	次年度に向けての改善策
1 教科教育力の強化と進学実績の向上	(1) 新教育スタイル「セルフデザイン」の確立と実践	①「進プロ（進学プロジェクト）」の計画・実施 ②「スタサタ！」の計画・実施	・各取組の実施 ・アンケートによる評価	・年間を6クールに分けて、「進プロ」「スタサタ！」を組織的に計画し、実施した。 ・教員アンケート「生徒は主体的にセルフデザインを行っている」肯定的評価65.5%。 ・保護者アンケート「わが子は進プロ・スタサタを活用できている」肯定的評価 中学74.6%	・セルフデザインについて、年間で懇談週間を確立し、担任から生徒への声掛け、助言を行う。 ・生徒がセルフデザインの記録し、振り返ることができる仕組みをつくる。
	(2) キャリア教育の充実	①キャリア教育企画、進学説明会の実施 ②新聞を用いたキャリア教育企画の実施 ③外部講師を招き「スタサタ！進路講座」の実施	①各企画の実施 ②各企画の実施 ③スタサタ！進路講座の実施	① (a)以下の説明会を実施した。 高3進学説明会(5/26,6/26)、中1保護者対象説明会(7/3) 中3内部進学説明会(7/10)、高1・2進学説明会(10/8,10/9) 中3・高1学部系統別説明会(12/9) (b)高2夢ナビLIVE、高1大学見学会はコロナ拡大のため中止。 ②高校生対象に以下を実施した。 ・「新聞記事を毎日読もう！」(平日) ・「新聞コラムを漢字かな交じり文に直そう！」(週末課題) ③年間で17講座を実施、Live配信も行った。 ・保護者アンケート「進路に関する情報を的確に伝え、きめ細やかな指導がされている」肯定的評価 中学76.0%、高校75.8%。	・説明会については内容を精査しながら引き続き実施し、情報提供と意欲喚起を図る。 ・新聞を用いた企画についても継続し、生徒に広い視野と教養を身につけるよう指導する。 ・「スタサタ！土曜進路講座」については次年度も継続し、より充実させる。
	(3) 模試・英検の活用と進学実績の向上	①模試の活用 ②英検の実施と合格実績 ③大学合格実績の向上に向けた取り組み	①模試の実施 ②英検の実施と合格状況 ③目標大学合格者数 ・国公立大学：6 ・関関同立：50 ・近畿大学：25	①模試（外部実力テスト含む）の実施。 ・高1：6回（スポーツ4回） ・高2：6回（スポーツ3回） ・高3：9回（コース・進路希望により異なる） ②英検一次試験を校内で準会場実施。 ・第1回：177名受検 53名合格 ・第2回：110名受検 23名合格 ・第3回：107名受検 27名合格 ② 大学合格者数(2022.4.1現在) ・国公立大学：5 ・関関同立：42 ・近畿大学：10	・模試については効果的に実施後の振り返りできるように実施回数、内容を検討する。 ・英検は各学年の取得状況を把握し、積極的に受験を勧める。 ・和歌山大学・大阪公立大を中心とした国公立大学進学体制を強化する。 ・近畿大学に合格できる教育プログラムを確立する。

2 強化と学力向上	(1)立命館コースの学力向上	①模試成績の向上 ②英語力の向上 ③高3検証試験での目標達成 ④入学前教育の充実	①3教科クラス平均50.0以上 ②GTEC等の成績 ③第1回・第2回で全員基準到達 ④入学前教育の実施	①高2は平均50.0に到達。 ②GTEC高1平均17.4UP、高2平均60.5UP。(6月→12月) ③第2回で国・英は到達基準に100%達成したが、数学は届かなかった。(最終的には希望者全員がRU・APUに進学) ④各教科の講座に加え、プレイスメントテストを目標とした英語講座及びオンライン英会話、理系は初立と共同で理系特別プログラムを実施した。	・模試偏差値平均50.0以上を目標に、基礎学力向上に取り組む。 ・引き続き、英語力向上に力を入れる。 ・大学進学後のGPA向上につながる取り組みを強化する。
	(2)大学で学び続けるための意識の向上	①高大連携企画の実施 ②校内企画の実施 ③校長面談の実施 ④主任面談の実施	・各企画の実施	①高1R講座、高2プログラミング講座 高1・2ライスボールセミナー、高2APUオンライン交流会等を実施した。高1・高2は12月にBKCを訪問。 ②高2・高3オリエンテーション、立命館ミーティング・卒業生から学ぼう！等を実施した。 ③11月に高3対象に実施した。 ④11月に高1・高2を対象に実施した。	・来年度もキャンパス訪問ができない可能性があるため、校内企画を充実させる。 ・理系進学希望者を増やすための企画を考える。 ・学部との連携を強化し、企画に活かす。
3 全国大会出場	(1)強化クラブの大会成績向上	・競技力向上に向けた効果的な練習	・各クラブの近畿大会・全国大会出場	・強化クラブ全6クラブ中、サッカー・柔道・硬式テニス・陸上・バスケットボールの5クラブで近畿大会出場。 ・強化クラブ全6クラブ中、サッカー・柔道・硬式テニスの3クラブで全国大会出場。	・放課後および土曜日の計画的・集中的な活動で全国大会出場常連校を目指す。 ・探究学習を中心としたスポーツコースの特色教育を考える。
	(2)中学生の部活動の活発化	①「接続クラブ」の実施 ②部活動に取り組みやすい放課後の環境づくり	・「接続クラブ」の実施 ・部活動の加入率増加	・毎月の中学探究活動日に「接続クラブ」を実施した。 ・中学生の部活動加入率75.0%。(前年度63.2%) ・保護者アンケート「部活動や生徒活動が活発に行われている」肯定的評価 中学76.5%、高校86.6%。	・「接続クラブ」は中高の探究活動日が重なる日については実施が難しく、次年度の実施に向けて検討が必要。
4 特色ある教育(探究型教育・グローバル教育・ICT教育)の強化	(1)協働的な学びの実践と学年・コースを越えた取り組み	①中高とも月1回の「探究学習日」の実施 ②進プロ・スタサタ!での学年を越えた取り組み	①各学年の探究学習の計画的実施 ②進プロ・スタサタ!での取り組みの実施	①中1は「英会話」、中2・3はコース別で探究学習を実施。高1～高3は各学年で探究学習を実施。 ・中1:「服のチカラ」プロジェクト 子供服を集めて海外に送る取り組みを行った。 ・中2:PR「SDGsについて」・A「ビブリオバトル」。 ・高1・3(1～3組)はオンラインで発表会、スポーツは高1・2合同で発表会を行った。 ・高2:個人で興味関心のある分野についての調べ学習を行った。 ②進プロは推奨学年を設定しているが、どの講座も学年を越えて受講可能とした。スタサタ!の講座についても、すべての講座で全学年受講可能とした。	・「探究活動日」については、より学年・コースの垣根を越えて取り組むことができるように、テーマや内容、方法等を工夫する。
	(2)国際理解・グローバル教育	①海外研修等の実施 ②オンライン英会話の実施	①海外研修等プログラムの計画・実施 ②オンライン英会話の実施	①海外研修等についてはコロナ禍のため実施しなかった。また、国内の英語プログラムも計画したが、実施できなかった。 ②希望者対象に「進プロ」「スタサタ!」にてオンライン英会話を実施した。また、高1(P,Rコース)、高2,3では「コミュニケーション英語」等の授業でオンライン英会話を実施した。	・オンライン英会話について、高校生は全学年全コースで実施する案を計画中。
	(3)ICT教育への対応と環境整備	①ICT教育の充実に向けた環境整備 ②「初橋チャンネル(オンデマンド授業)」の実施 ③スタディサプリの活用	①環境整備 ②オンデマンド授業の実施 ③スタディサプリの活用	①中学全学年と高1生徒全員にiPadを持たせることにした。また12月に全教室電子黒板の設置が完了した。 ②中学と高校P・Rコース(Aコースは希望者)について、毎週土曜日にオンデマンド授業の配信を行った。 ③授業や課題などでスタディサプリアを活用した。高校1年生には春・秋に「到達度テスト」を実施。 ・教員アンケート「生徒は授業等でICTを十分に活用できている」肯定的評価86.2% ・保護者アンケート「ICTを活用した取り組みが積極的に行われている」肯定的評価 中学89.8%、高校71.2%。	・引き続き、授業等での活用を促進する。 ・オンデマンド授業については実施回数やコースを検討し、次年度も継続して行う。 ・「スタディアプリEnglish」、中学生にはAI教材「Qubena」を導入し、個別最適学習の強化を図る。 ・文部科学省CBTシステム「MEXCBT(メクビット)」を導入し、有効に活用する。
5 生徒募集強化による定員の確保	(1)広報エリア・ツール等の充実	①特に大阪南部エリアへの広報強化 ②SNSを活用した広報展開 ③募集行事のライブ配信 ④立命館コースの広報強化	①大阪エリアの受験者数の増加 ②SNSのフォロワー数 ③ライブ配信の視聴数 ④立命館コース受験者数の増加	①大阪府からの入試志願者数(カッコ内は前年度) 中学10(5)・高校94(91) ②フォロワー数 Facebook 26・Instagram 120・LINE 111 ③高校入試説明会 視聴回数(3.11現在) 第1回274・第2回396 中学入試説明会 視聴回数 第1回134 第2回155 ④立命館コース志願者数120(86) ※プレミアムコース志願者数179(217) ※総合進学コース志願者数216(187) ※スポーツコース志願者数70(89)	・引き続き、他エリアとともに大阪南部エリアの広報に力を入れていく。 ・SNSからホームページへアクセスする仕組みづくり。 ・プレミアムコース・スポーツコース(バスケ・陸上・テニス)の志願者を増やす仕組みづくり。
	(2)募集イベントの充実	①学校見学会の複数実施 ②外部会場相談会の実施 ③その他説明会の充実	①参加組数 ②外部会場相談会の実施 ③オープンスクール等の内容の充実	①延べ75組の参加者があった。(前年度59組) ②河内長野・紀の川・橿原で延べ5回の出張説明会を行った。 ③中学オープンスクールでは従来のメニューのほか、iPad体験を追加した。学校見学会では「スタサタ!」「探究学習日」の様子を見てもらった。	・学校見学会については、次年度も継続して実施する。 ・外部会場説明会実施に際して広報を強化し、参加者数を増やす。 ・既存の説明会も内容を精査し、より充実したものにする。
	(3)コース変更や入試制度の改善	①中学コース変更 ②高校コース名変更 ③中学入試制度の変更 ④高校入試日程の変更	・中学入学者数の増加 ・高校入学者数の増加	入学者数(カッコ内は前年度) 中学26(12)・高校161(154)	・中学入試の日程や科目数等の工夫。 ・高校入試B日程についても実施日等を検討する。 ・特別奨学生制度を見直し、効果的に活用する。